

社会学Ⅱの概要と時間外学習の促進

社会科教育・魁生由美子

1. 授業の基本情報・概要

本授業の目的は、社会学理論の基礎を学習し、近代社会の成り立ちについて理解すること、次に、近代社会が内包する積極的側面と消極的側面について、現在の社会問題とかわらせて考えることである。

本授業の到達目標は、現代社会の在り方が、近代化の過程で生ずるさまざまな社会変化によって形成されてきたことを理解すること、そして社会変化とは、具体的にどのような現象であったのか理解し、現代社会の諸問題と結び付けて議論することができることとして設定した。

3 回生以上を対象とする社会学Ⅱは、2 回生以上を対象とする社会学Ⅰを履修したのちに履修する。社会学Ⅱの合格者は、4 回生以上を対象とする社会学Ⅲの履修ができる。

2017 年度の本授業は、履修者数 18 名であった。内訳は社会科教育専修、人間社会デザインコース、化成教育専修の学生である。授業開始時に出席を確認し、遅刻者のチェックも厳密に行った。毎回の出席率は約 90 パーセント～70 パーセントであった。授業スケジュール中、2 コマ分で中間ふりかえりを兼ねた視聴覚教材の視聴を行った。毎回の授業は A44 枚程度に相当するレジュメを配布し、適時、参考すべき文献および視聴覚教材、web ページを紹介した。文献の貸し出しを希望する学生については、貸し出しを行い、時間外学習の促進を心掛けた。

2. 授業評価・授業研究の内容

成績評価は、期末の筆記試験(客観問題と記述式の問題をおよそ五割ずつ)を行い、適時行った感想レポートの評価を加味した。

その結果、18 名の内訳は秀 2、優 3、良 5、可 4、不可 2、評価せず 2 となった。

授業評価について、自由記述方法で学生に授業に対する意見やコメントを書くように A5 の様式(記名式)を配布した。授業時に実施した授業評価の一部を以下紹介する。

○You Tube で京都の朝鮮学校襲撃事件を当時体験した 2 人の女の子の生の声を聞いた。なんとなくそれまで「民族教育は大事なんだろう」くらいにしか思っていなかったが、あの動画の彼女たち、そして周りの友人、家族の様子も知れて「彼女たちの当たり前だった生活を日本人が一方的に暴力的に壊してしまったのだ。」と実感した。

大学 1 年の夏ごろに〇〇コースの先輩方がヘイトスピーチをテーマにフォーラムで発表されていたのを思い出す。在日といわれる韓国籍・朝鮮籍の人たちは、旧日本帝国によって日本人となっていたものを戦後日本が一方的に日本国籍から排除した。戦前・戦中・戦後、日本で多くのいわゆる在日の人が日本で活躍していた事実を私たちはあまり知らない。そればかりか彼ら彼女らを尊重することもなく、汚い言葉で否定する日本人が少数でないことを 1 年の時に知って、やるせない気持ちになった。戦後日本は社会権を重視するが、日本が振り回した在日の人々には適用させない、無責任な態度を継続して取っている。確かに日本国籍を持っていない人を排除するというのは自国で社会権を受けることを促すため必要かもしれない。だが、留学時に日本にいる在日の人々のことについて触れると、韓国人たちは存在すらあまり知らなかった。自国でも居場所のない人々に日本で教育を受け、また自分のルーツを知る民族教育を受けられるようにすることは日本人にとって、その意味をよく考えさせるためにも重要だと考える。日本社会の寛容さを「民族教育」を通して日本人がより考えるべきだ。

3. 「授業時間外学習の促進」について

第二次世界大戦中のプロパガンダ作品や専門書を紹介した。ほとんどの履修学生が Web で視聴した旨、報告を受けた。

4. 総括

文献等の活字資料の重要な部分を印刷し配布する等、引き続き「情報収集力」、「読む力」を育む工夫に努めたいと思う。